

# キャリア教育とインターンシップ

Carrier Education and Internship

白崎 博公\* 福田 靖\*

Hirokimi Shirasaki\* Yasushi Fukuda\*

\*玉川大学工学部機械情報システム学科, 〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1

\*Department of Intelligent Mechanical Systems, College of Engineering, Tamagawa University,  
Tamagawa-Gakuen 6-1-1, Machida, Tokyo 194-8610

## Abstract

The Department of Intelligent Mechanical Systems has a long history of positive results in career searching assistance for students. This paper talks about career education and the challenges of the internship program. We have an important role in the internship program providing feedback and statistics about the Kanto area. Our department has been giving employment guidance and factory field trips to students for many years. These programs are discussed and explained.

Keywords: Carrier education, Internship, Employment, Factory tour.

## 1. はじめに

当大学工学部では、「ものづくりの実践的技術者の育成」を掲げ、1962年の学部設立当初より学外実習の重要性を踏まえて、「工場実習」という3年生の科目として、インターンシップを行ってきた。機械情報システム学科の前進である機械工学科では必須科目として全員参加、電子工学科では社会情勢と学生の資質を考えて必須科目扱いとして全員参加を目標に指導してきた。現在の機械情報システム学科では、必須科目3単位として実施している。文系学部では、どこで、何を学ばせるかという難しい面があった。しかし、大学は学問を教えるだけの場所ではなく、社会に飛び立っていける人材を育成することにある、といった教育理念を推し進める一環として、2003年から全学部でのスタートとなった。

著者の一人白崎は、20年近くインターンシップ担当を続けている。また、この2年間は就職指導

も担当している。平成13年に厚生労働省の委託事業として、「インターンシップ受入開拓事業」が始まり、ウェブを利用したハイパーキャンパスシステムが始まった。白崎は、このシステムの始まりから積極的に参加し、「インターンシップ解説ビデオ」に出演し<sup>1)</sup>、インターンシップの普及活動を行ってきた。また、東京経営者協会が主に行っている関東地区のインターンシップ成果報告会



図1 東京地区インターンシップ成果報告会での白崎教授による講演

での講演<sup>2)</sup> (図1) や、成果報告書でいくつかの報告を行い、原稿を発表してきた<sup>3-5)</sup>。学生にも、関東地区のインターンシップ成果報告会での発表<sup>6)</sup> や、成果報告書への報告をさせてきた<sup>7,8)</sup>。

最近の理工系離れの影響で、学科が統合され、白崎の所属する学科は、電子工学科、知能情報システム学科、機械情報システム学科と学科名が変わった。また、もう一人の著者福田の所属は、機械システム工学科、機械情報システム学科と変わってきた。2002年度より、機械情報システム学科での入学生が3年生に進級してきたので、現在は、3年1組の機械系のインターンシップを福田が、3年2組の電子情報系のインターンシップを白崎が担当している。本稿では、まず、キャリア教育の一環としてのインターンシップの取り組みについて、2章で白崎が記述している。

次に3章では、インターンシップ以外での、キャリア教育への取り組みについて述べている。白崎の過去に所属していた電子工学科および知能情報システム学科では、長年、企業の人事担当者を5-6名お招きして、3月に1泊2日、もしくは2泊3日で就職研修を行ってきた。近年、企業の採用活動が早くなり、12月に1泊2日で研修行事を行うよう変更した。そして現在の機械情報システム学科では、電子情報コース(3年2組)がこの就職研修行事を引継ぎ、12月に行っている。一方、機械工学コース(3年1組)でも、それまで行っていた9月の工場見学の中で、就職研修を取り入れた。3章では、最近の機械情報システム学科の研修行事でのキャリア教育への取り組みについて、機械工学コースを福田が、電子情報コースを白崎が記述している。

## 2. インターンシップ

ここでは、主に当学科でのインターンシップの取り組みの方針と実施方法について述べる<sup>4)</sup>。

### 2.1 研修目的

一般的に言われている「教育効果理論の実践に

よる学習効果と学習意欲の向上。専攻、学習分野での知識の向上。責任感、自立心、独創性の向上。職業意識の形成。適職の確認。企業、社会からの評価の確認。」等を教育目的としている。また、最近の学生は会社をすぐ辞める傾向にあるが、この原因である、会社とのミスマッチを無くすことにも役立てていく。当大学の全人教育の中に、「労作教育」という言葉がある。「百見は一験に如かず。机の上で身に付けた学問は、実地で生かされて初めて意義がある。」という考えである。理論と実践を常に反復する過程で人間的成長も遂げる。社会の望む人材を育てる実践教育の場として、インターンシップを活用する。

### 2.2 制度概要

主として3年生の夏休み中に学外実習として行う。学部、学科により、必須科目や選択科目となっており、当学科では必須科目で3単位の単位取得となる。期間は2～3週間が標準である。主なインターンシップ先は、企業、地方自治体、官庁などである。工学部では、3学科それぞれにインターンシップ担当がおり、それぞれの独自ルートで、受け入れ先を開拓している。

機械情報システム学科では、就職に関連した企業等に、実施要領や受入れ回答書などを4月に送付する。6月中旬ぐらいまでに返事を頂く。受入れが決まった企業は、学校推薦として必ず学生を送り込むようにする。そして、学生紹介、協定書、学研災加入証明書の写し、自己PR及び志望動機等を企業に送る。協定書は、企業秘密の件、学生や企業双方がインターンシップにしっかり取り組むというような内容である。意欲的な学生もしくは学校推薦にもれた学生は、キャンパスウェブ<sup>9)</sup>や自己開拓で新たなインターンシップ先を探し、6～7月に、インターンシップ先を決定する。

事前指導は、新学期ガイダンスから始まり、必須科目であり全員参加する必要がある旨を説明する。インターンシップ開始直前のインターンシッ

ブ壮行会では、ビジネスマナーを含む諸注意を行う。インターンシップ実施期間中には、本学の「師弟同行」の伝統に基づき、教員全員が手分けして、お礼を兼ねてインターンシップ先に赴く。そして、インターンシップの実習内容や学生の様子などを、“インターンシップ見回り報告書”に記入して、提出してもらう。

インターンシップが終わると、企業からは“実習証明書”を返送してもらう。9月中旬には、インターンシップ体験報告会（図2）を開催し、学生全員が体験報告を行う。そして9月下旬までに、実習内容と成果をまとめて、“インターンシップ報告書”として提出する。単位登録は、インターンシップを終えた秋 semesterで行う。成績評価は、企業からの実習証明書、インターンシップ体験報告会、各先生のインターンシップ見回り報告書などを総合的に考慮し、可否で単位評価を付ける。

### 2.3 カリキュラム概要

新学期のガイダンスでは、「インターンシップ解説ビデオ」（日経映像）<sup>1)</sup>を、学生に見せる。当大学や他大学学生の積極的なインターンシップへの取り組みが映し出され、学生はインターンシップへの興味が沸いてくる。

インターンシップ体験報告会では、「指導者から教えられたこと」、「楽しかったことやつらかったこと」、「自分自身が学んだこと」などを、全員に発表させる。また、企業に記入してもらっ



図2 インターンシップ体験報告会

た“実習証明書”のコメントを、学生名や企業名を伏せて学生全員に示す。これらで、個人の体験をみんなで共有することができる。学生個人には、実習証明書のコメントを見せ、企業から見た自分の足りない点を理解してもらう。

### 2.4 導入効果

インターンシップ体験報告会を行う9月には、学生の意識が変わり、就職ガイダンスや勉学にも、意欲的に取り組むようになる。大半の学生が、コミュニケーション能力の重要性を自覚し、教員との挨拶もするようになる。

以下、インターンシップ後の学生の意見を示す。「大学と会社では、生活が違ってくる。生活のリズムをつくり、体調を維持しなければならない。」「常に考えて行動すること。仕事は楽しいです。」「ものづくりの楽しさや興味がいつそう深まり、仕事（お金をもらうこと）ということ、体で感じ取り学ぶことが出来た。」「失敗しても、次は同じ失敗をしないこと。」「こちらの誠意は、あちらに伝わっている。」「会社でのヒューマンスキルや実際行われていることがはっきり分かったのでいい勉強になった。」「元氣良く発言すること。自分から積極的に作業を行い、わからない事は積極的に聞きに行く。」「挨拶は、とても大事。大きな声で、はきはきと気持ちよくすること。」「社会生活が楽しみになった。」「学校で学んだことがほんの一部でしか使われていない。しかし、その一部が基礎となりそれを応用して、一つの回路が出来上がっている。基礎の大切さを学んだ。」「会社や工場の雰囲気を知ることが出来た。」「企業のものづくりに対する熱意を肌で感じる事が出来た。」「企業においてはただ仕事ができるだけではだめで、人と人とのつながり、協調性がいかに大切であるか学んだ。」「現場の人から『手伝ってくれて助かる』と言われ、言葉で力が湧き出ることを初めて知った。」「今では大きな会社ほど海外に出て行かないとやって行けないことを知った。」

## 2.5 問題点、改善点

今までお付き合い頂いていた企業の社会状況が厳しくなり、他大学もインターンシップに取り組み始めたため、会社の新規開拓が問題となってきた。また、学生の一部ではあるが、学科の工学とは違った分野を目指す学生や、就業意識を持たない学生がいる。これらの学生が、文系の仕事を希望した場合、学科の仕事分野にこだわらず、就業体験としてインターンシップを認めるか、が問題となる。

最近、会社からは、良い学生がいれば採用したいとの意向が強くなり、学生も就職活動の一環と捉える傾向が強まってきている。当学科でも、就職に繋がる学生が、毎年数名いる。よって、就職活動の一環として、自己PRを書くことや、事前に企業を会社の中から知ることの出来る体験の重要性を強調することで、学生は積極的に参加するようになる。

## 2.6 企業への期待要望

ほとんどの学生は、事前に受入が決定している会社でインターンシップを行うので問題はない。しかし、事前に面接を行う会社もある。また、たとえばキャンパスウェブ<sup>9)</sup>などの一般公募型のインターンシップを利用する場合は、受入れ決定までの期間を、適時なるべく短くして頂きたい。夏休みに入るまでインターンシップ受入れ決定を延ばされ、不可になりインターンシップを受けられなくなった例がある。受入れ決定を、7月中旬までにして頂けると、その後の学生との対策も採りやすい。

次に、実習証明書には、遠慮なく企業から見た学生評価を素直に述べてもらいたい。企業からの評価は、学生は素直に真剣に受け入れるので、大変勉強になる。

最後に、大学3年生全員が、このインターンシップを体験できるよう、なるべくたくさんの企業がこの制度に参加して頂きたいと思う。そして、日本の次世代を担う若者に夢と希望、そしてスキ

ルアップのチャンスと活躍の場を与えて頂きたいと思う。どの時代も、学生のあたりはずれがあるかも知れない。しかし難しく考えずに、日本経済の活力のためにも、'産'学'官'が一体となってインターンシップを盛り上げて頂きたいと思う。

## 3. 研修行事を通したキャリア教育

ここでは、研修行事を通したキャリア教育について述べる。今年度まで、機械情報システム学科3年次の研修行事は、機械工学コース（1組）と電子情報コース（2組）に分けて実施してきたため、各コースの内容をそれぞれ報告する。

### 3.1 機械工学コース（1組）のキャリア教育

平成23年度の機械工学コースの研修行事は、3年1組担任である福田が企画し、9月の特別研修期間の9月12日（月）から13（火）に、1泊2日で工場見学とキャリア研修を行った。

企業の工場で実際の生産現場を見ることにより、大学で修得する知識と、企業における技術とのつながりを体感することを目的としている。見学先は、機械系の主な就職先である自動車、食品、化学などの企業である。また、これまで電子情報コース（2組）のみが実施していたキャリア研修も合わせて行った。

まず、初日の午前10時から1時間半、ライオン(株)小田原工場を見学した(図3)。ライオン(株)小田原工場は、歯磨き粉や薬品を製造する工場であ



図3 ライオン(株)小田原工場での集合写真

る。毎日使っている歯磨き粉がどのような工程で作られるのか、実際の生産の様子を見ることが出来、日用品の見方も変わったのではないと思う。

昼食の後、宿泊地である湯本富士屋ホテルに移動し、午後2時から4時間、キャリア研修を行った。

キャリア研修では、まず、2組の就職を担当している白崎教授が、就職における面接対策、ビジネスマナーについて、約1時間の指導を行った(図4)。

その後、キャビン・アテンダント(CA)の研修を行っているキャプラン(株)JALアカデミー本部の講師が研修を行った。研修内容は、就職活動への心構え、面接の心得などについて、ワークシートを用いて説明し、その後、実際の面接を模擬した実習を行った。

最初、学生は講師の先生の迫りに圧倒されている様子だったが、最終的には、積極的に自ら志願して面接の研修に参加するようになった。

2日目は、午前10時から2時間、王子製紙(株)富士工場を見学した。静岡県富士市は、自然の湧水が豊富な地域で、大量の水を消費する製紙会社の工場が多い。実際に紙を製造する工程や、紙をリサイクルして再生紙を製造する工程などを見学した。デジタル技術が発展した現代でも、毎日の生活には紙が欠かせないが、紙がどのように生産されるのかを知ることが出来た。また、紙のリサイ



図4 研修会場で就職指導を行う白崎教授

クル工程も理解出来たと思う。

昼食後、14時から2時間、静岡県裾野市の矢崎総業(株)を見学した。矢崎総業(株)は自動車部品を製造する企業で、ワイヤーハーネス(自動車用組電線)、コネクタ、メータなどが主な製品である。ワイヤーハーネスなどの展示場を見学し、人事担当者に就職活動の心構えについてご指導頂いた。

本研修により、「機械系の主な就職先である自動車、食品、化学などの企業の工場見学を行い、実際の生産の現場を知り、就職の意識を高める」という当初の目的は達せられたと思う。

なお、平成24年度は、機械工学コースと電子情報コースは、合同で研修を行う計画である。

### 3.2 電子情報コース(2組)のキャリア教育

平成23年度の電子情報コース(2組)の進路指導特別研修について述べる。この研修は、3年2組担任の白崎が企画した。白崎は、電子工学科時代から20年近く、学科独自で企画した就職研修に参加し、写真やビデオでの記録係も担当してきた。これらのノウハウを用いて、企画を行った。

12月16日(金)から17日(土)にかけて、神奈川県伊勢原市にある研修会場フォーラム246において実施した。内容は、人事担当者による模擬面接、人事担当者との懇談会、JALアカデミー講師による就職対策マナー講座、就職担当との進路に関する個人面談、履歴者作成指導、面接対策ビデオ、SPI模擬試験、作文模擬試験など、多彩である。

初日は、午前9時半から、開会式を行い、2組の就職指導を行っている白崎が、就職の心構えについて、パワーポイントでの講演を行った。まず、“就職活動を始めるにあたって、「就職」についてどのようなことを考えているか。”、“卒業したら就職するのが当たり前”、“それなりの会社に入らないと格好悪いと安易に就職を考えてはいないか”、“就職するということは人生を考える上で大切な問題である”という問いかけから始めた。その後、テキスト<sup>10)</sup>とビデオを用いて、

“ライフスタイル”，“職業観”，“仕事の持つ意味”，“働く意義”，“企業が求める人材とは”，などについて考えながら，ワークシートへの記入作業を行ってもらった。

午後は，JAL アカデミー講師による，就職対策ビジネスマナーを，3時間行った（図5）。今，はやり「接遇」を厳しく指導して頂いた。“叱って褒める”という指導方法で，学生は皆真剣に取り組んだ。服装や髪などのチェックも厳しく，完全不合格という学生もいたが，学生も現時点で指摘されてよかったと前向きに考えられる指導法が，すばらしかった。

夕方からは，会社の社長も含めて，企業での採用活動の経験豊富な3人の講師に来て頂いて，一人15分から20分程度の模擬面接が始まった（図6）。同時に，工学部担当のキャリアセンターの



図5 JAL アカデミー講師による就職対策マナー講座



図6 企業担当者による模擬面接

方，就職担当の学科主任と白崎で，就職進路指導相談を始めた。これは，事前にとっておいた希望調査に基づいて行った。

これらの面接を行っていない学生は，メイン会場で面接対策ビデオを見たり，SPI 対策本の勉強をした。

午後8時半から10時までは，企業講師との自由懇談会が始まった（図7）。ここでは，企業人事担当者の本音トークが聞け，学生には非常に有益な時間になった。また，ここで採用担当者から，入社試験を受けることを進められる学生もいる。

2日目も夕刻まで，企業の講師の方々には，模擬面接を行ってもらった。就職担当等は，就職相談が午前中に終わるので，SPI 対策試験や作文模試，履歴書指導などを手分けして行った。

午後4時頃から，企業講師の方々一人30分の講演を行って頂いた。今年は，商社，製造，IT関連の企業の方々であったので，それぞれの分野でのお話しが聞けた。特に，“お金を稼ぐために，企業は大変な努力をしている。”，“社員一人を雇うとは，大変なことである。”，“落ち込むようなこともあるが，あまり周りの人の目は，気にしない方がいい。”など，経験に基づいた話は，実感があつた。

最後に，閉会式を行った（図8）。これで，2日間の研修は終わるが，後日，研修の結果を考慮して書き直した就職希望調査書と感想文を出してもらうことで，この研修は最終的に修了すること



図7 企業担当者との懇談会



図8 閉会式での集合写真

になる。

#### 4. おわりに

本稿では、当学科のキャリア教育の一部を、3年生のインターンシップと就職研修を通して、報告した。当学科は、学生の理工系離れの減少により、機械系と電子情報系の学科が一つの学科となった学科である。そのため、それぞれの学科の伝統を重んじながら、機械系と電子情報系でのキャリア教育を進めて来た。しかし、機械や電子情報系学生の就職状況は、数年前までは非常に良かったが、最近では求人数が減り厳しい状況で、さらに良いキャリア教育を追求して行く必要がある。この手始めとして、次年度からは、9月に1泊2日で、機械系（1組）と電子情報系（2組）合同で、就職研修と工場見学を行うことにしている。

#### 参考文献

- 1) 白崎博公他，“インターンシップ解説ビデオ（全3巻）”，インターンシップ推進センター監修，日経映像(2003)。
- 2) 白崎博公，“実習担当を長年続けた教員から見たインターンシップ事例報告”，2005年度東京地区インターンシップ成果報告会，東京経営者協会(2005.10)。
- 3) 白崎博公，“「ハイパーキャンパス」を有効利用”，2003年度インターンシップ成果報告

書，p.84，インターンシップ推進支援センター（東京経営者協会内）(2003.12)。

- 4) 白崎博公，“大学編：玉川大学”，インターンシップ活用の手引き，pp.51-53，インターンシップ推進支援センター，東京経営者協会(2006.3)。
- 5) 白崎博公，“インターンシップ担当として14年”，平成19年度インターンシップ成果報告書，pp.104-105，東京経営者協会(2008.1)。
- 6) 栗林宏明，“インターンシップ実習報告”，2004年度東京地区インターンシップ成果報告会，東京経営者協会(2004.11)。
- 7) 桜井亮輔，“会社は体験してみなければわからない”，平成19年度インターンシップ成果報告書，pp.26-27，東京経営者協会(2008.1)。
- 8) 斉藤隆寛，“見えてくるもの”，平成21年度インターンシップ成果報告書，pp.35-36，東京経営者協会(2010.1)。
- 9) インターンシップ・キャンパスウェブ  
<http://www.campusweb.or.jp/internship/web/>
- 10) ウィネット編，“面接対策ビジネスマナー”，(株)ウィネット(2009)。

---

2012年2月29日原稿受付

Received, February 29, 2012